

2021（令和3）年度学校評価表

遊学館高等学校

建学の精神	何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと（遊学の精神の涵養）。 周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること（良妻賢母の育成）。
教育理念	教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。
教育目標	文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間の育成をめざす。

【アンケート調査】				
	名 称	実施予定	対象	主担当部署
1	学校行事アンケート（体育祭）	6 月	全校生徒	保健体育科
2	保護者アンケート	7 月	2, 3 年生保護者	教務部（IR）
		3 月	1 年生保護者	
3	学校行事アンケート（学園祭）	9 月	全校生徒	生徒会
4	学校生活アンケート	10 月	全校生徒	① 生徒指導部（品格、挨拶、愛校心、正義感（マナー）
				② 遊学講座運営委員会（遊学講座）
				③ 教務部（総合的な探究の時間）
5	委員会アンケート	10 月, 2 月	各委員会	生徒会
6	授業アンケート	12 月	全校生徒	教務部（IR）
7	卒業生アンケート	2 月	3 年生	教務部（IR）
8	修学旅行アンケート	3 月	2 年生	1,2 年学年会

重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成					
重点目標に対する具体的取組		担当部署	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
①	自らの品格を高めるとともに、他者の人格を重んずる心を養う ○SNS によるトラブル及びいじめの未然防止 ○スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	1 年生女子における SNS のトラブルが多くあった。引き続き家庭との連携が不可欠であり、協力が必要である。 先生方が SNS について、勉強することも必要である。 教育相談とカウンセラーの連携は充実しており、生徒の心のケアに努めた。	ループリック 12 点満点評価 （1）年度当初のアンケートの実施と面談 （2）SNS トラブル発生相談件数及び解決数 （3）カウンセリング受診者数と解決数（振り返り） S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	B 8 点 （1）アンケート＋面談という形で年間通して実施した。 （2）SNS トラブルで指導対象になるものもあった。 （3）生徒、保護者に対してカウンセリングを行う。 ※受診は状況に応じて対応。 総評：アンケート実施により、SNS トラブルを未然に防げた。集計が不十分だった学年もあるため、学年会やクラス担任にも協力してもらい集計を徹底する。カウンセリングは来年度も継続して実施する。
②	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	校門指導や教員の声掛けにより、挨拶が出来る生徒が増加。今後は校外においても積極的に挨拶が出来るように指導したい。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	B 学校アンケートの結果は、ほとんどの項目が 70%を越えたあたりになっている。内容としては、校則順守、基本的な生活習慣の確立、挨拶、人間関係。丁寧に生徒の成長がみられる指導をこれからも継続していく。
③	正しい頭髮・服装で登校 ○校門指導（毎日実施） ○服装指導期間（定期的） ○服装指導（日常的） ○頭髮指導（月一回）	生徒指導部	指導通知書の発行枚数は減少したが、コロナ禍の中なので評価しづらいものがある。昨年に引き続き、女子生徒のスカート丈の指導が多い。服装指導については、一定の教員だけでなく、全ての教員の声掛けが必要である。	生活指導通知書の発行枚数を昨年度と比較 S 90%以下 A 95%以下 B 105%以下 C 110%以下 D 110%超	D 前年度に休校などが多く、今年度との比較は難しいが、指導書が多い＝指導不足ではなく、生徒指導部長、クラス担任、該当生徒と保護者での面談も多く行われ、生徒指導部、クラス担任、保護者の連携が取れた場面が多くみられたので、継続して取り組んでいきたい。
④	不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底	生徒指導部	遅刻は、特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒の生活習慣の改善や家庭の協力が必要である。	遅刻者集計表で 10%未満の月数 S 7 ヶ月以上 A 6 ヶ月以上 B 5 ヶ月以上 C 4 ヶ月以上 D 3 ヶ月未満	D 遅刻は特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒に対して早出登校だけでなく、普段からの生活習慣の改善や、家庭の協力が今後必要である。
⑤	正義感を持って公共のルール・マナーを守る ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの向上	生徒指導部	昨年度よりは、バス停における外部からのご意見をいただくことは、教員のバス停指導を定期的に実施し減少したが、コロナ禍のなか、マナーについてのご意見をいただくことがあった。また、地域のボランティアなどに積極的に取り組む生徒もいる。	ループリック 12 点満点評価 （1）外部からの苦情及びお礼の言葉の件数 （2）金沢駅での乗車指導 （3）交通安全講話の実施 （4）問題行動の件数 S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	C 4 点 （1）外部から苦情、お礼の連絡を多く頂いた。 （2）金沢駅バス指導の成果により、劇的に苦情件数は減少した。しかし、継続的な指導が必要。 （3）交通安全講話は、年度初めに自動車学校の方に来ていただき実施した。 （4）問題行動に至ったものもあった。 SNS トラブルなど、クラス担任を中心に生徒に対して積極的に関わることで問題を未然に防ぐ指導が必要。

重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	教員の指導力及び資質の向上 ○校内研修の充実 ○県外視察や研修を奨励 ○研究授業・互見授業週間の活性化 ○ICT 活用 ○オンライン技術	教務部	（評価：C）学期ごとに互見授業週間を設けた。評価表と実施時期は検討が必要である。 （評価：D）授業アンケートの結果については、肯定的評価 80%の教員割合は 67.6%となった。これは、コロナ禍により生徒に発言やグループワークの指導を行うことができなかったことが大きな要因と考える。 ICT の活用については、日常的にプロジェクターの使用が多く、生徒により効果的な提示を行いながら授業展開をしている。	ルーブリック 20 点満点評価 (1)校内研修 (2)県外視察・研修の数 (3)研究授業・互見授業週間 (4)授業アンケート S 18 点以上 A 15 点以上 B 12 点以上 C 10 点以上 D 10 点未満	C	評価については、コロナ禍において教員が校内外の研修にほとんど参加できなかったことが主な原因である。その中でも校内研修は 5 回行うことができ、うち外部講師による校内研修は、オンラインで 2 回行うことができた。また学期ごとに互見授業週間を設定し、参加割合は 15%程度と少ないことが課題である。ICT 活用については、GoogleWorkspace への登録を全教員に行い活用の準備を整えることができた。活用法については校内研修を利用し共有したい。Classi は年間通して連絡手段として活用できた。授業アンケートでは、57.1%の教員が 80%以上の肯定的評価を得ている。
②	学習の基礎基本の徹底 ○好ましい学習習慣を身につけるための指導	教務部	（評価：A）授業態度指導カードの発行数の全校生徒に占める割合は 7.96%であった。そのうち、複数回を重ねる生徒の割合は 1.9%であり、指導を受けるほとんどの生徒が改善の方向にあるといえる。家庭学習においては、休校等の影響もあったが、3 学期より週末課題を試験的に開始し、教科ごと課題への取り組み姿勢がよりよい方向へと働けばと考えている。	授業態度指導カードの発行数と全生徒数との割合 S 5%未満 A 5%～10% B 10%～25% C 25%～50% D 50%超	S	授業態度指導カード発行枚数の生徒に対する割合は 4.8%と、発行数自体は少ない。授業態度指導カードのあり方については、令和 4 年度 1 年生からの観点別評価実施にともない見直しを行う。
③	英語検定受験者の増加と資格取得	教務部 検定担当者	（評価：B）合格者：準 1 級 1 名、2 級 2 名、準 2 級 36 名、3 級 20 名、校内受験率：13.5%、合格率：25.8% 多くの生徒が大学入試に向けて英検の取得に興味関心を持つようになってきた。そのため、数年前までは 3 級の受検が主であったが、現在は準 2 級の受検者数が増加している。結果として 2 年生特進コースの取得率は著しく、24 名中 16 名が準 2 級以上を取得したことになり、うち 2 名は 2 級を取得し、1 名は準 1 級に挑戦している。	ルーブリック 12 点満点評価 (1)受検者数 (2)準 2 級以上の合格者数 (3)取得率 S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	B	合格者：2 級 10 名、準 2 級 27 名、3 級 9 名、校内受検率：13.3%、合格率：29.5% 3 年間の受検状況を見ると、受検率も 15%近くなり、少しずつではあるが、検定受検への意識が出てきている。また今年度は 2 級合格者も 10 名出ている。特に部活動単位での受検をする場合が多く、文武両道を考えている部活動も多い。大学入試共通テストで高得点を取っている生徒は全て英検 2 級以上を取得していた。そのため、次年度以降は特進のクラス担任と連携して、年間 1 度でも特進コース全体で受検できるようにし、3 年次に 2 級以上の取得を特進コースでは目指す。
④	模擬試験における目標の明確化 ○模擬試験結果のフィードバック	教務部	（1 年：C）第 2 回スタディーサポートにおいては、D 層の割合は、1 年生 59.6%である。どの学年も、教科などで模擬試験を活用する機会が少ないため、生徒は模擬試験の意義や成績について認識、関心が低い。今後、進路指導部とも協力し、模試のあり方や活用方法などを検討したい。	D 層の生徒数と学年生徒数の割合 S 10%以下 A 30%以下 B 45%以下 C 60%以下 D 75%超	B	第 2 回スタディーサポートの D 層の割合は、44.0%である。今後は教科会と連携し、生徒のできない部分を明らかにし基礎学力の向上をはかりたい。今年度はコロナ禍にあり受験者が少なかったが、外部模試の活用をすすめたい。
			（2 年：D）第 2 回スタディーサポートにおいては、D 層の割合は、2 年生 79.7%である。		C	第 2 回スタディーサポートの D 層の割合は、58.1%である。

重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける					
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価 分析（成果と課題）
⑤	「総合的な探究の時間」を充実・発展させる	教務部	（1年：A）ENAGEEDという教材を使用し、「この先の未来、自分がどう人生を歩んでいくか」の判断基準を考え抜き、これから何をしたいのか、どんなことを学びたいのかに気づき、自分が選んだ道を正解にするための力を身につけるための学習を行い、未来に向けてイメージを広げ、問題点に気づき発案する力など、これから求められる力について考えることができた。	学校生活アンケート（総合探究の時間）の結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A 小論文のテキストを利用し、テーマや設問で意見を問う小論文の書き方を学び、序論・本論・結論の構成にしたがって段落分けができるようになった。また、SDGsに興味を持った項目について調べ、企業や学校、各団体等が目標を達成するために実践していることを学んだ。多くの問題が発生していることを知り、今、自分で何ができるのかを考えるきっかけとなった。
			（2年：A）論語の教材を利用し、今後の高校生活も含めて、人間関係を円滑にしていく上で、思いやりのある心が大切であることを学んだ。 志望理由書のマスターノートの学習を通じて、志望理由書を作成し、その後の添削によるフォローノートの作成、2回目の志望理由書作成を行うことで、少しずつ質の高い文章が書けるようになってきた。進路に向けての良い準備ができた。		A 「ENAGEED」を使用し「新しい時代に対応する力」について考える教材を用いて、自身の視野や可能性を広げ、自分が選んだ道を正解にする力を身につけるための学習を行い、他人の立場に立って考える力や問題解決することによって新たな力が身についた。 志望理由書の書き方を学び、来年度の進路について意識を高め自分自身を見つめ直すことができた。 SDGsについて学習し、16の目標を確認しそれぞれの問題点や課題に気づき知識を深めながら問題解決に必要なことを考える力を身につけた。
			（3年：S）論語の教材を利用し、社会に出た時により人間関係を築き上げることができるように、人との関わりや思いやりの心が大切であると学んだ。 マイキャリアノートを利用し、高校生活をより充実したものとなるよう自分自身を見つめなおした。 志望理由書マスターノートや小論文の学習を通して、書く力を身につけた。活動を通して、相手を思いやる気持ちの大切さに気づくことができた。自分の考えを文章にまとめることにより、書く力が身についた。		S 小論文ガイダンスを受講し、課題に対して自分の意見をわかりやすく表現する練習をした。活動を通して、相手に伝わりやすい文章で表現する力をつけた。 職業講話では、日本航空の客室乗務員の方から「おもてなしの心」や「制服の着こなし」について学んだ。講話を通して礼儀正しさや、制服を正しく着こなすことが相手に安心感を与えるということに気づくことができた。 マイキャリアノートを利用し、自分自身を見つめ直すきっかけとした。
⑥	図書室利用者数の増加	教務部	（評価：D）コロナ禍の状況で通常の活動ができなかった。図書委員会として図書室の整備を行った。また、室内の一部の改修工事が実施された。	利用者数 S 年 350人以上 A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	D 昨年度と同様コロナ禍の影響のため活発な活動ができなかった。図書室の使用についての「図書だより」を発行できた。

重点目標 3. 広い視野を持ち主体的に学校生活を営む						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	主権者教育を見据えた生徒会活動の活性化	生徒会	（評価：B）コロナウイルスの影響で、行事が減少し、行事での委員会の仕事はほとんどなかったが、日常での委員会の活動は生徒が責任を持って行っていた。また、生徒会が主体となり委員会の生徒を動かす場面も多く見られた。来年度は委員会の改編を予定している。	委員会アンケート S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	委員会での主体的な活動は、本校では難しい一面もあるが、来年度はボランティア活動を取り入れるなどして、委員会の生徒と共に多くの生徒が参加できる活動を準備したいと考えている。
②	本校らしい体育祭・学園祭 ○生徒自身の手で作り上げ、生徒全員が参加し、楽しむことができる体育祭・学園祭を行う	保健体育科	コロナ禍のため、実施できず。	体育祭アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	S	コロナ禍ではあったが、はじめて室内での体育祭を実施できた。熱中症等の体調不良者や大きなけがもなく、全員が楽しむことができた。今後は室内でもさらに盛りあがる競技を実施していきたい。
		生徒会	（評価：－）コロナウイルス感染の恐れがあるため、今年度の学園祭は中止とした。代替行事としてスポーツ大会を、生徒主体にして企画・運営を行った。	学園祭アンケート結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	S	今年度は、コロナ感染の影響があっても2日開催での実施を前提に計画したいと考えている。1日開催では、生徒会の予算運営にかなりの負担がかかっている。また、生徒の意見でも2日間開催を希望する意見が多くあった。
③	充実した修学旅行を実施する ○事前・事後（プレゼン含む）学習の内容を深める	1年学年会	今年度の入学生より修学旅行は2年次から1年次で実施することになった。	修学旅行アンケート結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上	－	コロナウイルス感染拡大の影響で来年度に延期となった。
		2年学年会	コロナウイルス感染症により、修学旅行は中止となった。	B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	－	コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。代替旅行（1泊2日）を3年次4月に実施予定。
④	遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にチャレンジする	遊学講座運営委員会	今年度より年間回数が18回に変更となっている。感染症の影響で実施予定日を遅らせることになったことや検定の実施回数自体が減っていることが受講状況にも影響があるようにみられる。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	学校生活アンケートの結果で肯定評価は1年生92%、2年生78%、3年生83%と学年ごとによって違いがあった。1年生にとってはこのような講座受講型は初めてだったことから積極的に取り組むことができたとも考えられる。 コロナ感染症関係で講座が休講になり生徒の欠席者数が例年より増加した1年であった。
⑤	部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する	部活動担当	(1) 5月（全学年） 男子：66%、女子：54% 全体：61% (2) 10月（1、2年） 男子：63%、女子：55% 全体：59%	部活動加入率 S 75%以上 A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	加入率が男子で68%、女子で50%なので女子生徒に対する加入率増加の方法を考えていきたい。
⑥	部活動において、県総体等（3年生が出場する最後の大会）での成績上位をめざす 硬式野球（夏の県予選）、サッカー（選手権県予選）、駅伝競走（県予選）、バトントワリング（全国大会地区予選）、吹奏楽（全国大会県予選）	部活動担当	令和2年度の県総体において陸上（駅伝競走）以外の競技はすべて中止となり、評価できませんでした。	学校対抗戦において、優勝（県代表）10点、準優勝6点 ベスト4入賞（金賞）4点 ベスト8入賞2点 で換算 S 80点以上 A 70点以上 B 60点以上 C 55点以上 D 55点未満	S	コロナ禍でコロナ対策など大変な面もあったが各部頑張ってくれた結果である。来年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていたきたい。
⑦	学校のグローバル化を推進する	国際交流推進委員会	ナンシー市やシジス校のコロナ感染症の状況が把握できなかったため交流は控え、教員間のメールのやり取りにとどめた。	シジス校との交流 S スカイプで生徒同士の交流（年3回～）質疑応答 A 生徒同士のメールのやり取り（年6回～）スカイプ交流で友達になり交流を始める B 異文化の研究（フランスの歴史・文化・言語など） C クリスマスカードや年賀状を送る D 教員間メール交換（～3回）	B	Zoomを利用して生徒同士の交流を2回、ニューイヤーカードの交換を行った。Zoomでの交流は、大雪の様子やeスポーツの活動の様子などを映し出すと、とても興味関心を持ってもらえた。現状はまだまだ渡航することは難しいためZoomでの交流が主となるが、生徒への参加を強く呼びかけ、本校からの参加生徒を増やすことが望まれる。

重点目標 4. 進路指導の充実、特に進学実績の向上						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	国公立・難関私立大学合格実績 ○特進補習や勉強合宿等の充実 ○一般進学文系向けの業後補習 ○進路指導室での進学意識向上化 ○生徒の進路や特性にあった進路先と入試方法を、コロナ禍などの状況に応じた的確な進路指導を行う。 ○志望校（国公立・難関私大）検討会議の開催	進路指導部	（評価：C）国公立大学は2名合格。新しくはじまった共通テストに対応しきれなかった面がある。島根大学は、部活動を最後まで頑張りながら、総合型選抜で合格することができた。難関私立大学には5名合格。生徒の長所を活かした指導で、立命館大学に総合型選抜で合格することができた。	国公立・難関私立大学合格者数 S 20名以上 A 15名以上 B 10名以上 C 5名以上 D 5名未満	B	国公立大学現役合格者10名を達成。一般入試合格には金沢大学2名を含んでいる。昨年度の反省を生かし、総合型選抜も積極的に受験させたことが1つの要因である。また、夏期休暇中には選抜者を京都の河合塾での夏期講習に参加させたことで、受験生としての意識も高まった。この成果が本年度だけに終わらないよう、今後も実績を積み上げていかねばならないことが一番の課題である。
②	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	高大連携 教育推進 委員会 ↓ 令和4年度からは <u>進路指導部</u>	（評価S）大学への進学者数は29名で、全体の7.9% ＜合格者の内訳＞ 社会福祉学部：16名 ※子ども福祉学科10名 医療健康学部：6名 看護学部：7名 ※合格者全員が進学 コロナの影響で、県内志向が高まっている。また、景気状況悪化から就職活動への影響を懸念し4年制大学を選択する傾向も見られる。	全校生徒に対する進学者の割合＜金城大学＞ S 6%以上 A 5%以上 B 4%以上 C 3%以上 D 3%未満	大学 A	進学者数は24名で、全体の5.4% ＜合格者の内訳＞ ・社会福祉学部：11名 ※子ども福祉学科6名 ・医療健康学部：7名 ・看護学部：7名 ※社会福祉学科1名を除く24名が進学 社会福祉学科を総合型選抜で受験した3名全員が不合格となったので、その原因や今後の指導について考えたい。
			（評価S）短大への進学者数は64名で、全体の17.4% ＜合格者の内訳＞ ビジネス実務：36名 幼児教育：20名 美術：8名 ※合格者全員が進学 3年学年会として専門学校を志望する生徒に働きかけを行った。またビジネス実務学科での学びを希望する男子生徒が増えた。オープンキャンパスへの参加で、他校の生徒や遊学館を卒業した先輩との交流も志願者数に影響した。	＜金城大学短期大学部＞ S 16%以上 A 12%以上 B 10%以上 C 5%以上 D 5%未満		進学者数は52名で、全体の12.3% ＜合格者の内訳＞ ・ビジネス実務：33名 ・幼児教育：12名 ・美術：7名 ※合格者全員が進学 3年学年会として金城以外の短大や専門学校を志望する生徒に個人面談などを通し進路指導を行った。また、金城コース在籍者以外の生徒に対し、オープンキャンパスへの積極的な参加を促した。
③	就職指導の充実 ○景気に陰りが出てきたので、各生徒と企業に対して昨年以上にきめ細かく対応して、就職指導を行っていく必要がある。また、公務員志望者には、民間企業対象者とは別に説明会を実施する。	進路指導部	（評価：S）コロナ禍においてどのような就職活動になるか不安はあったが、結果的に、学校紹介の生徒に関しては全員内定をいただくことができた。	就職希望者（学校紹介）の決定率 S 100% A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	A	本年度も引き続きコロナ禍の不安を抱えながらの指導ではあったが、学校紹介の生徒に関してはほぼ内定をいただくことができた。学校には多くの求人票がくるが、生徒の希望職種と離れている場合も多く、生徒自身が探してくるケースも増えている。

重点目標 5. IR（インスティテューショナル・リサーチ）及び自己点検・評価						
重点目標に対する具体的取組		主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）
①	各コースにおける教育活動の充実 ○カリキュラムマネジメントの充実	教務部	今年度新設	ループリック 20 点満点評価 （1）教員の指導力及び資質の向上（重点目標 2 の①） （2）学習の基礎基本の徹底（重点目標 2 の②） （3）模擬試験における目標の明確化（重点目標 2 の④） （4）本校の満足度（重点目標 5 の②） （5）成績不振者数 S 18 点以上 A 15 点以上 B 12 点以上 C 10 点以上 D 10 点未満	C	カリキュラムマネジメンを作成し、教科に指針として提示した。保護者アンケートや卒業アンケートでの満足度はいずれも高い。校内外研修への参加や模擬試験における学力向上など、課題は残る。
②	本校の満足度調査を行う ○保護者アンケート	教務部	（評価：A）今年度は 3 年生の保護者を対象としアンケートを実施した。実施時期は 1 学期保護者会。回答数 251 は生徒数の約 70％である。概ね評価は高く、一番低いのはコロナ禍のため中止が多かった学校行事に関するものであった。	各アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B	全学年の保護者に対してアンケートを実施した。実施時期は 1 学期保護者会である。1 年生の回答率は 49.1％、2 年生は 27.4％、3 年生は 71.9％であった。概ね肯定的評価が多かった。肯定的評価の平均は 89.2％であった。
	○卒業生アンケート		（評価：A）コロナ禍で行事が中止縮小されることが多かったが、生徒は充実した学校生活をおくり、進路実現に向けよく努力をしていた。		A	今年度も、コロナ禍で行事の中止や修学旅行が中止になったが、3 年学年会の努力等もあり、生徒の満足度は高く、総合評価の肯定的評価は 92.6％となった。

以上